

きいて・めもして・こたえよう

やくぶつらんよう ぼうし きょうしつ
薬物乱用 防止 教室なまえ
名前

聞くめあて やくぶつ きけん せい 薬物の「危険性」と、さそわれたときの「断り方」を、分けてメモしましょう。

ことば やくぶつ きけん せい ことわ かた
おとさない言葉：薬物の危険性・断り方ほうそう
放送が終わったら、
ひら
開いて問題に
もんだい
答えましょう。

やまおり

(1) 薬物を一度でも使うと、体や心はどうなると話していましたか。

(2) 薬物の危険性として、話されていたものはどれですか。○をつけましょう。
ア たった一回のつもりが一生をだめにしてしまう
イ すぐにやめられる

ウ 体には何の害もない

(3) さそわれたときの「断り方」として、けいさつの方が教えてくれたことを書きましょう。

(4) こわい目にあったり、なやんだりしたとき、どうすればよいと言っていましたか。○をつけましょう。
ア 一人でかえこまず、家の人や先生、けいさつに相談する

イ だれにも言わずにがまんする

ウ 自分で何とかする

(5) 「危険なさそいをきっぱり断る」ために、あなたが大切なと思うことを、理由とともに書きましょう。

すすめ方

- ① 中央の点線で山折りにして、「めも」の面だけを表にする（問題を先に見せない）。
- ② この放送文を先生が読む（または用意した音声を流す）。読む回数：1回。聞きながらメモを取らせる。
- ③ 放送が終わったらプリントを開き、メモを見ながら問題に答えさせる。

放送文

今日は、けいさつの、方を、おまねきして、「薬物乱用、防止教室」を、行います。危険な、薬物から、自分を、守るために、大切な、話です。しっかり、聞いて、めもしましょう。

「薬物とは、体や、心を、こわす、危険な、ものです」と、けいさつの、方は、話します。「一度でも、使うと、脳が、きずつき、やめられなく、なります。体は、やせほそり、心も、不安定に、なります。こわいのは、たった、一回の、つもりが、一生を、だめに、して、しまう、ことです。ぜったいに、手を、出しては、いけません。」

「では、もし、さそわれたら、どう、しますか」と、けいさつの、方は、続けます。「たとえ、仲の、よい、先ばいでも、『これ、やってみない』と、言われたら、はっきり、ことわる、ことです。断り方は、かんたん。『いらない』『帰る』と、言って、その場を、はなれる。それだけで、よいのです。」

「大切なのは、一人で、かかえこまない、ことです」と、けいさつの、方は、言いました。「もし、こわい、目に、あったり、なやんだり、したら、かならず、家の、人や、先生、けいさつに、相談して、ください。みなさんを、守る、大人が、たくさん、います。」

薬物は、遠い、世界の、話では、ありません。だからこそ、正しい、知識を、もち、きっぱりと、断る、力を、身に、つけて、ほしい。けいさつの、方の、真けんな、話に、教室は、しんと、静まりかえって、いました。

メモのれい

薬物乱用防止教室（危険性・断り方）

危険性：一度でも脳がきずつきやめられない／体はやせ心も不安定／一回のつもりが一生をだめに

断り方：先ばいでも『いらない』『帰る』と言ってその場をはなれる

こまったら：一人でかかえこまず、家の人・先生・けいさつに相談（守る大人がいる）

こたえと かいせつ

（1）脳がきずつき、やめられなくなる。体はやせほそり、心も不安定になる

「一度でも、使うと、脳が、きずつき、やめられなく、なります」などと話していました。

（2）ア（たった一回のつもりが一生をだめにしてしまう）

イ・ウは事実とは反対の、あやまった考えです。

（3）『いらない』『帰る』と言って、その場をはなれる

「はっきり、ことわる」「その場を、はなれる」ことを教えてくれました。

（4）ア（一人でかかえこまず、家の人や先生、けいさつに相談する）

「一人で、かかえこまない」「かならず…相談して、ください」と言っていました。

（5）（例）ふだんから「はっきり言う」練習をしておくこと。とっさのときに、こわくてもことわれると思うから。

大切だと思うことと理由が書けていれば正解です。